

報告事項イ

平成23年度韓国江原道との教員交流派遣について

平成23年度韓国江原道との教員交流派遣について、別紙のとおり報告します。

平成23年7月19日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

## 平成23年度韓国江原道との教員交流派遣について

平成23年7月19日  
小 中 学 校 課

### 1 趣 旨

鳥取県教育委員会と韓国江原道教育庁との教育交流の一環として、訪問団を派遣し、学校及び教育関係施設への訪問を通じて、教育問題等について情報交換を行い、相互理解と友好を深め、交流の促進を図るとともに、国際理解教育をはじめとする本県教育の向上に資する。

### 2 派遣期間

平成23年6月28日(火)～7月3日(日)

### 3 訪問団の構成

団 長 中学校長1名  
副団長 県立高等学校教頭1名  
団 員 小学校教諭2名、中学校教諭2名、県立高等学校教諭1名、  
県立特別支援学校教諭1名 ほか 計10名

### 4 訪問の概要

6月29日(水) 韓国江原道教育監表敬訪問  
春川東園学校(特別支援学校)訪問  
・施設見学、意見交換会  
南山初等学校(小学校)訪問  
・施設見学、意見交換会  
6月30日(木) 江原外国語高等学校訪問  
・日本語クラスの授業参観、意見交換会  
方山中学校訪問  
・施設見学、意見交換会  
7月 1日(金) 雪嶽女子中学校訪問  
・授業参観、意見交換会  
江原外国語教育院訪問  
・教員研修施設の見学、意見交換会  
江陵女子高等学校訪問  
・施設見学、意見交換会  
7月 2日(土) 文化施設見学

交流の様子については、別添資料のとおり。

(別 添)

## 1 江原道教育庁訪問

すべての学生たちが自らの素質を十分に啓発して、楽しい学校生活を送れる『皆のための教育』の実現に向け、共に生きる人間教育、根本がしっかりした創意教育、誰にでも温かい教育福祉、人権を尊重する学校文化、共に参与する教育行政の5点を重点に施策を進めている。



江原道教育庁にて(教育監と)

意見交換では、「公教育としての正常化をめざす。これまでの教師中心の教育から学習者中心の教育への転換を図り、楽しく勉強ができる幸せな学校をつくることで将来に生きる力を育て、多様な将来選択が保障される教育でなければならない。」と説明を受けた。

## 2 施設訪問の概要

### 春川東園学校(特別支援学校)

江原教育の重点施策の1つである『障がい差別にならない特別支援教育(特別支援教育の機会を拡大/特別支援教育の質を向上)』を実践。

校内には、生徒のレベルに応じた作業が体験できる体験室などが設置。校内には生徒たちが運営するカフェや洗車実習場もあり、地域の人たちも利用しており、その収益は生徒たちの通帳へ入る。



家庭生活体験室



校内で運営されているカフェ

### 南山初等学校

「個別指導によるつまずきへの初期対応」と「読書、論述の授業の推進」を実践。教室には、電子黒板や電子教卓、タブレット PC が整備されており、児童のレベルに合わせての指導が可能である。また、学力向上に向けた放課後授業も実施。



普通教室の様子



放課後教室(合唱の様子)

外国語教育(江原外国語高等学校、雪嶽女子中学校、江原外国語教育院)

江原外国語高等学校は、特殊目的高校の認可を受けた外国語教育に特化した高等学校。学校の特色としては、「原書読みや英語討論等の活動による外国語能力の伸長、放課後活動、補充授業、自己主導学習による塾などの私教育の要らない学校運営」が挙げられる。校内には、各生徒の将来の夢が『ドリームビジョン』として掲げられている。

公教育のモデルとされる革新学校である雪嶽女子中学校の2年生で実施されていた英語の授業は、ネイティブとのチーム・ティーチングであったが、生徒同士のグループ協議も全て英語で行われるほどのレベルの高さであった。



生徒の将来の夢が大きく掲示されている(江原外国語高等学校)



英語の授業(雪嶽女子中学校)

江原外国語教育院では、教員対象の研修会を実施しており、今年度も小学校・中学校教員60名を対象とした長期研修(施設内研修4ヶ月、海外研修2ヶ月)を実施。また、教員のみならず、小中学生を対象とした英語体験合宿や高校生を対象とした学生外国語(日本語、中国語)体験も行っている。



日本語クラスの授業(江原外国語高等学校)